

「理由を問う」力が育つ単元・授業の構想と展開  
 ～教材文『お手紙』 がまくんにとってのかえるくんって、どんな人？～

上越市立大町小学校 尾矢 貞雄

1 はじめに

考える力（以下、「思考力」）の解釈やとらえは実に広い。目に見ることのできない「思考力」をとらえようとするとき、「思考力」を発揮する子どもの具体的な姿を洗い出し、意図的、計画的、段階的、そして反復的に「思考力」の育成を目指すことが求められる。

当校では、「思考力」をテーマに実践研究を進めている。当校では「思考力」を「対象や他者との関係の中で、根拠ある自分の考えをつくっていく力」と定義し、「思考力」は、「感覚・感性」「知識・経験」「思考法」の3つ（以下、「思考力」を支える3つの要素）に支えられて発揮されると考えた。そして、対象を広く、深く見つめるものの見方・考え方としての「思考法」を、子どもの姿をもとに、「原因を問う」「理由を問う」「比較する」「分類する」「立場を変える」「二項対立の視点をもつ」の6つに整理し、これらの「思考法」を活用し「思考力」を発揮する子どもの育成を目指している。本稿では、「理由を問う」思考法によって子どもが「思考力」を発揮する単元の構想と展開の実際について述べてみたい。

なお、当校では子どもが「思考力」を発揮するために、上記の3つの要素が関連し合う単元づくり、授業づくりが必要と考え、当校独自の単元構想表と授業活動案を考案し、実践に取り組んでいる。本稿では、当校で現在活用している単元構想表と、構想表の作り方についても紹介したい。

2 単元づくり・授業づくりの実際

(1) 単元づくりの実際

教材文『お手紙』は、「かえるくん」の言動については詳細に書かれているが、「がまくん」の言動については多くは書かれていない。そこで、登場人物同士の心的距離に着眼し、同心円チャートを使って、登場人物「がまくん」と「かえるくん」の人間関係を想像する単元を構想した。その際、登場人物の行為に着目し、「なぜ、そうしたのか？」という行為の理由を問い続けながら、登場人物相互の相手を思う気持ちについて考えていくようにした。

対象「教材文『お手紙』」

文章の叙述を根拠に登場人物の心情を想像したり、自分の思いと比較したりして、登場人物相互の関係について考えをもつ子ども

時数	学習活動	感覚・感性	思考法	知識・経験
1	教材文『お手紙』を読み、感想をもつ	お手紙を受け取ったときの心の動き		教材文のあらすじ お手紙に書いたこと
2・3	教材文『お手紙』を音読し、あらすじをつかむ	お手紙を書いて出すときの心の動き		
4・5・6	登場人物になりきり、教材文の内容を演じる	かえるくんの人柄 がまくんの人柄 かたつむりくんの人柄		かえるくんの行動 がまくんの行動 かたつむりくんの行動 かえるくんの言葉 がまくんの言葉 かたつむりくんの言葉
7・8	かえるくんが、がまくんを想う気持ち、がまくんが、かえるくんを想う気持ちを考える	かえるくんの、がまくんへの思い	かえるくんがお手紙を書いた理由【理由を問う】 自分にとっての、相手の存在【立場を変える】	かえるくんにとってのがまくん がまくんにとってのかえるくん
9	自分にとって大切な人にお手紙を書く	自分にとって大切な人への思い	お手紙をもらう人の気持ち【立場を変える】	お手紙の書き方

図1 単元構想表

図1が単元の構想表である。単元構想表のよさは、「思考力」を支える3つの要素同士のつながりが視覚的に分かることである。まず、「単元における目指す子ども像」を設定し、単元全体を通して、どのような子どもをはぐくみたいのか、どのような学びを獲得させたいのかという教師の願いを明らかにする。次に、目指す子ども像に迫るために、どのような「学習活動」が必要かを考える。そして並行して、それぞれの学習活動ではたらかせたい「思考力」を支える3つの要素を洗い出す。最後に、「思考力」を支える3つの要素同士を、どのように関連付けるかを思い描いて、要素同士を線で結ぶ。「思考法」に多くの矢印が集まる部分は、子どもの「思考力」の発揮が期待できる場所である。

## (2) 授業づくりの実際

教材文に「かえるくん」の行動描写が多く書かれていることから、まずは、「かえるくん」にとっての「がまくん」の存在について、同心円チャート(図2)を使って考えた。「かえるくん」にとっての「がまくん」の存在は、「親友」であることは、教材文を読むことで理解することができた。しかし、「がまくん」にとっての「かえるくん」の存在がなかなかとらえられなかった。そこで、ペープサートを使って、作品中における「がまくん」の行動を明らかにしていった。

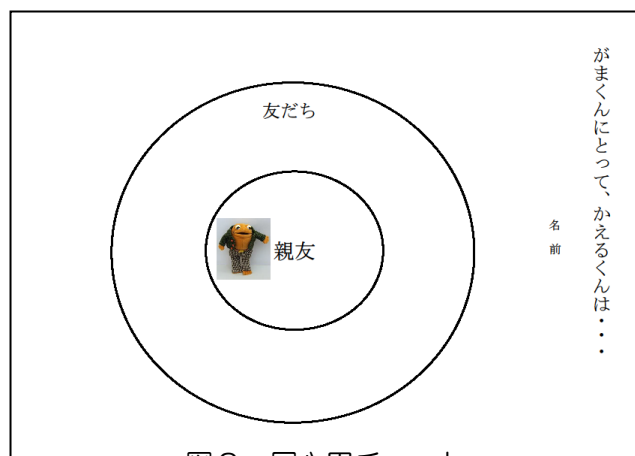


図2 同心円チャート

単元のはじめでは、「がまくん」にとっての「かえるくん」について、多くの子どもは「親友」だと考えていた。しかし、ペープサートを使って演じて、演じながら「がまくん」の言動の理由を考え、話し合っていくうちに、子どもの考えが変わってきた。子どもの考えの中から、象徴的だった子ども(Tさん)の考えを、教師のやりとりとともに紹介する。

Tさん: このお話を最初に読んだころは、がまくんとかえるくんは親友同士だと思っていたけど、今は、考えが変わりました。お話のはじめのところでは親友だと思っていた、途中で友だちになっちゃって、それから最後には大親友になったと思う。

教師: がまくんにとってかえるくんは、はじめは親友だったけど、あるとき友だちになって、でも最後には大親友になったって考えるんだね。どうしてそう考えたの? その理由を聞かせて。

Tさん: はじめはね、がまくんは、お手紙が一度も来なくて悲しい気持ちでいることを、かえるくんに話したでしょ。自分の本音を話せる相手は親友だと思うから、はじめは親友だと思うの。でもね、がまくんが悲しい思いでいるのに、かえるくんは急いで帰っちゃったでしょ。かえるくんは、がまくんにお手紙を書くために急いで帰ったんだけど、そのときは、がまくんは自分にお手紙を書くためにかえるくんが帰ったなんて分からないから、がまくんは、『こんなに悲しい気持ちでいるのに、どうして僕を一人ぼっちにして帰るの』って思って、きっとがまくんは、かえるくんのことを『親友じゃない、ただの友だちだ』って思ったと思うの。でもね、かえるくんががまくんに手紙を書いたことが分かったときに、がまくんはとっても嬉しくて、かえるくんのことを大親友だと思ったんだと思います。

登場人物の行為の理由を「なぜ?」と問い続けることで、子どもは文章の叙述をもとにして、自分自身の経験や自分の思い描く「親友像」と関連させ、根拠ある考えをつくることができたのである。

## 3 おわりに

当校では、子どもの姿をもとにして、「思考法」を「原因を問う」「理由を問う」「比較する」「分類する」「立場を変える」「二項対立の視点をもつ」の6つに「思考法」を整理し、六年間を通して子どもの「思考力」の発揮を促す教育活動づくりに努めているが、「思考法」は6つとは限らない。今後も、子どもの学びを見つめながら、新たな「思考法」の存在を確かめていきたいと考えている。